



2021年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年8月6日

上場会社名 セーレン株式会社

上場取引所 東

コード番号 3569 URL <http://www.seiren.com>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼最高経営責任者 (氏名) 川田 達男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 経営企画本部長 (氏名) 川田 浩司

TEL 0776-35-2111

四半期報告書提出予定日 2020年8月7日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	21,143	29.4	1,455	42.8	951	64.4	254	86.7
2020年3月期第1四半期	29,947	2.0	2,543	5.8	2,671	6.1	1,909	9.8

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 1,635百万円 (%) 2020年3月期第1四半期 2,163百万円 (78.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	4.59	4.55
2020年3月期第1四半期	34.08	33.80

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第1四半期	127,574	77,129	59.5	1,367.01
2020年3月期	126,480	79,726	62.0	1,414.15

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 75,941百万円 2020年3月期 78,440百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		18.00		18.00	36.00
2021年3月期					
2021年3月期(予想)		18.00			

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

配当予想の修正については、本日公表いたしました「業績予想および配当予想に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	42,000	30.9	1,900	62.6	1,900	64.6	800	78.8	14.41

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

2021年3月期の連結業績予想については、現時点で通期の合理的な業績予想の算定が困難であるため、第2四半期(累計)の業績予想のみを開示しております。

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期1Q	64,633,646 株	2020年3月期	64,633,646 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2021年3月期1Q	9,080,621 株	2020年3月期	9,165,521 株
------------	-------------	----------	-------------

期中平均株式数(四半期累計)

2021年3月期1Q	55,489,350 株	2020年3月期1Q	56,052,268 株
------------	--------------	------------	--------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本日公表いたしました「業績予想および配当予想に関するお知らせ」をご覧ください。本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

【添付資料】

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報.....	2
(1) 経営成績に関する説明.....	2
(2) 財政状態に関する説明.....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明.....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記.....	5
(1) 四半期連結貸借対照表.....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書.....	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間.....	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間.....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書.....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項.....	10
(継続企業の前提に関する注記).....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記).....	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用).....	10
(連結損益計算書関係).....	10
(セグメント情報等).....	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における経済環境は、新型コロナウイルス感染症拡大による世界的な需要縮小ならびに経済活動の制約の影響により、悪化の一途を辿りました。

新型コロナウイルス感染症拡大が続く中、従業員はもとより、お客様やお取引先、地域社会における感染拡大を防ぐため、全社グループで徹底した感染防止対策を実施しております。また、急速に悪化する事業環境に対し全社で危機意識を共有し、徹底した経費削減を中心とする「コロナ緊急対策」をいち早く断行し、全社一丸となって対策に取り組んでおります。

また、厳しい経営環境においても、中期方針「21世紀型企業への変革！」に基づき、変化し続けるお客様ニーズに応え、安定した収益確保と継続的な成長を果たすため、“新規事業の創出”と“グローバル事業の拡大”を柱とした事業戦略を推進しております。併せて、企業の潜在力である人材力、開発力、環境対応力を高める経営を継続し、企業体質の強化に取り組んでおります。

当第1四半期の連結業績は、売上高 211 億 43 百万円（前年同期比 29.4%減）、営業利益 14 億 55 百万円（同 42.8%減）、経常利益 9 億 51 百万円（同 64.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益 2 億 54 百万円（同 86.7%減）となりました。

[セグメント別の業績概況]

(車輛資材事業)

新型コロナウイルス感染症拡大により、全世界で自動車の生産および販売活動に大きな影響が及んでいます。

国内（2020年4月～6月）では、感染拡大防止に向けた政府の緊急事態宣言を受け、自動車の生産・販売活動は制限を余儀なくされ、国内の自動車生産および販売台数が大幅に減少しました。その結果、当社グループの国内事業は売上高を落とし、前年同期比で減収・減益となりました。

海外（2020年1月～3月）では、最初に感染拡大が始まった中国（世聯汽車内飾（蘇州）有限公司、世聯汽車内飾（河北）有限公司）において、外出規制により操業日数が大幅に減少した2月、3月に売上高が減少しましたが、4月以降は自動車販売市場ともに回復基調に移っています。その後、全世界に感染拡大が進行し、アメリカ（Seiren North America, LLC）、メキシコ（Seiren Viscotec Mexico S.A. de C.V.）、ブラジル（Seiren Produtos Automotivos Ltda.）、タイ（Saha Seiren Co., Ltd.）、インドネシア（PT. SEIREN INDONESIA）でも3月後半に入り影響が見られ始めましたが、当第1四半期（2020年1月～3月）における業績への影響は軽微なものとなりました。結果、海外事業全体では、前年同期比で減収・減益となりました。

当事業の売上高は 110 億 95 百万円（前年同期比 35.8%減）、営業利益 6 億 52 百万円（同 55.0%減）となりました。

(ハイファッション事業)

新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた、政府の緊急事態宣言を受け、百貨店をはじめとする衣料品の主力販売店舗の休業、各種スポーツイベントの中止、学校の休校など、衣料品の消費が急激に落ち込みました。淘汰が進むアパレル業界では、国内外で老舗ブランドや大手アパレルの破綻、大規模な店舗数削減の動きが見られ、生き残りをかけた競争は一層厳しさを増しています。

このような環境のなか、BtoB事業の客先であるスポーツアパレル、ファッションアパレル、インナーアパレルが、ともに苦戦を強いられ、当社グループにおいては、衣料向けテキスタイルおよび製品の発注数量の減少、キャンセルや延期、新規企画の中止の影響を受け、売上高を落としました。20SSの販売機会を逸した客先では、在庫の増加や先行投資の抑制など、事業環境の回復にはかなりの時間を要すると想定されます。

今後、大きく変化していくであろうアパレル業界において、多彩な商品展開を在庫レスで実現し、消費者はバーチャル試着で好みの商品をオーダーすることができるセーレン独自の「Viscotecs make your brand®」こそが、時代にマッチした衣料品の製造販売プラットフォームと考え、ファッション向

けBtoB事業における店舗数拡大とアイテム拡大に注力していきます。

当事業の売上高は41億35百万円（前年同期比31.3%減）、営業利益6百万円（同96.7%減）となりました。

（エレクトロニクス事業）

新型コロナウイルス感染症拡大により、全世界で外出規制が実施されました。リモートワークの急速な拡大や外出機会の減少による巣ごもり需要を背景に、ハードディスクやゲーム機器の需要が高まり、KBセーレン(株)のワイピングクロス「ザヴィーナ®」や導電性素材「プラット®」において特需がありましたが、導電系「ベルトロン®」の欧州市場向けの販売は、外出規制による消費低迷の影響を受け、売上高が減少しました。また、スーパー繊維「ゼクシオン®」は生産能力の増強を行い、今後も新規顧客開拓ならびに用途開発を進めていきます。

当事業の売上高は24億77百万円（前年同期比13.2%減）、営業利益は3億55百万円（同37.2%減）となりました。

（環境・生活資材事業）

新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた、政府の緊急事態宣言を受け、店舗の休業、住宅展示場への来客の減少、病院経営の悪化、企業の経費削減により、当セグメントの市場にも影響が及んでいます。

当セグメント主力のハウジング資材事業では新設住宅着工戸数の今後の落ち込み、また、オフィス・インテリア資材事業でも新規案件の減少が懸念され、客先での在庫調整、発注数量の減少や発注延期の影響を受け、売上高が減少しました。また、病院や介護施設等においても先行きの不透明さから、ベッド等の備品購入を見送る動きが見られ、関連製品の売上高が減少しました。

当事業の売上高は17億34百万円（前年同期比18.5%減）、営業利益は2億7百万円（同16.7%減）となりました。

（メディカル事業）

新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた、政府の緊急事態宣言を受け、百貨店をはじめとする店舗の休業により、当社の独自技術で商品化した、繭から生まれた天然成分「ピュアセリシン™」配合のコモエース化粧品の売上高が減少しました。また、病院の一般診療の減少にともない、KBセーレン(株)の「エспанシオーネ®」（特殊素材）などのグループ一貫機能を活かした医療用資材では、既存客先での売上高の減少がありましたが、新規客先からの受注獲得もあり、医療用資材は総じて売上高が伸びました。同じくKBセーレン(株)の特殊原系「ベルカップル®」についても、水処理施設向けの特需を受け、売上高を伸ばしました。

当事業の売上高は14億83百万円（前年同期比4.3%増）、営業利益は4億7百万円（同6.3%増）となりました。

（その他の事業）

（株）ナゴヤセーレンの不動産賃貸管理事業等が堅調に推移しました。

当事業の売上高は2億15百万円（前年同期比8.6%減）、営業利益は1億29百万円（同1.3%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して10億93百万円増加の1,275億74百万円となりました。流動資産は、受取手形及び売掛金が減少した一方で、新型コロナウイルス感染症拡大による金融環境の変化に備えた現金及び預金の増加があり、前連結会計年度末と比較して28億88百万円の増加となりました。固定資産は、海外子会社の財務諸表の換算レートが円高になったことなどにより、前連結会計年度末と比較して17億95百万円減少しました。負債の部は、手元資金確保を目的とした借入金の増加などにより、36億90百万円増加し、504億44百万円となりました。純

資産は、為替換算調整勘定の変動や、剰余金の配当による利益剰余金の減少などにより、全体で 25 億 96 百万円減少し、771 億 29 百万円となりました。

キャッシュ・フローの状況につきましては、当第 1 四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は 254 億 97 百万円となり、前連結会計年度末より 87 億 50 百万円増加しました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、19 億 3 百万円の収入（前年第 1 四半期連結累計期間は 32 億 42 百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益 6 億 86 百万円、減価償却費 11 億 78 百万円などによるものです。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、1 億 45 百万円の収入（前年第 1 四半期連結累計期間は 10 億 6 百万円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出 5 億 62 百万円があった一方で、定期預金の取り崩しによる収入が 7 億 21 百万円あったことによるものです。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、76 億 72 百万円の収入（前年第 1 四半期連結累計期間は 5 億 45 百万円の支出）となりました。これは主に、借入金の純増による収入 87 億 1 百万円などによるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021 年 3 月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染拡大による事業活動への影響を合理的に算定することが困難であることから未定としておりましたが、その後の緊急事態宣言解除を受け、限定的ではあるものの、一部に経済活動再開の動きが見えてまいりましたので、現時点で入手可能な情報や予測等に基づき算定しました 2021 年 3 月期第 2 四半期（累計）の連結業績予想を公表いたします。

詳細につきましては、本日公表の「業績予想および配当予想に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,192	29,221
受取手形及び売掛金	26,333	21,341
有価証券	177	187
商品及び製品	11,152	11,280
仕掛品	3,028	2,920
原材料及び貯蔵品	4,829	4,565
その他	1,871	1,947
貸倒引当金	△57	△47
流動資産合計	68,528	71,417
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	21,329	20,408
機械装置及び運搬具（純額）	10,358	9,512
工具、器具及び備品（純額）	549	512
土地	11,937	11,766
リース資産	317	290
建設仮勘定	1,366	1,537
有形固定資産合計	45,859	44,028
無形固定資産		
のれん	1,126	1,086
その他	2,913	2,645
無形固定資産合計	4,040	3,731
投資その他の資産		
その他	8,155	8,504
貸倒引当金	△104	△107
投資その他の資産合計	8,051	8,397
固定資産合計	57,952	56,156
資産合計	126,480	127,574
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,009	11,343
短期借入金	2,980	7,026
未払法人税等	678	395
賞与引当金	1,218	365
その他	4,697	4,501
流動負債合計	24,584	23,633
固定負債		
長期借入金	13,919	18,574
役員退職慰労引当金	160	131
退職給付に係る負債	6,261	6,314
その他	1,828	1,791
固定負債合計	22,169	26,811
負債合計	46,754	50,444

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,520	17,520
資本剰余金	16,805	16,794
利益剰余金	56,068	55,324
自己株式	△11,533	△11,424
株主資本合計	78,860	78,215
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,426	1,777
為替換算調整勘定	△1,847	△4,054
退職給付に係る調整累計額	0	3
その他の包括利益累計額合計	△420	△2,273
新株予約権	557	500
非支配株主持分	728	687
純資産合計	79,726	77,129
負債純資産合計	126,480	127,574

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
売上高	29,947	21,143
売上原価	21,854	15,011
売上総利益	8,093	6,132
販売費及び一般管理費	5,550	4,676
営業利益	2,543	1,455
営業外収益		
受取利息	56	75
受取配当金	65	69
雇用調整助成金	—	53
その他	131	148
営業外収益合計	253	347
営業外費用		
支払利息	23	13
為替差損	93	832
その他	8	5
営業外費用合計	125	851
経常利益	2,671	951
特別利益		
固定資産売却益	0	3
特別利益合計	0	3
特別損失		
固定資産処分損	5	36
操業休止関連費用	—	※ 223
投資損失引当金繰入額	33	8
特別損失合計	38	268
税金等調整前四半期純利益	2,633	686
法人税等	702	427
四半期純利益	1,930	259
非支配株主に帰属する四半期純利益	20	4
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,909	254

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益	1,930	259
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△304	350
為替換算調整勘定	561	△2,248
退職給付に係る調整額	△24	3
その他の包括利益合計	232	△1,894
四半期包括利益	2,163	△1,635
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,135	△1,598
非支配株主に係る四半期包括利益	27	△36

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,633	686
減価償却費	1,252	1,178
固定資産処分損益(△は益)	4	33
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1	1
投資損失引当金の増減額(△は減少)	33	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△783	△851
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	12	57
受取利息及び受取配当金	△132	△145
支払利息	34	13
為替差損益(△は益)	△0	1,243
売上債権の増減額(△は増加)	2,505	4,401
たな卸資産の増減額(△は増加)	△79	△342
仕入債務の増減額(△は減少)	△968	△3,217
未払消費税等の増減額(△は減少)	△79	△345
その他	74	△253
小計	4,508	2,461
利息及び配当金の受取額	130	141
利息の支払額	△34	△13
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△1,362	△686
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,242	1,903
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△844	△562
有形固定資産の売却による収入	0	12
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△314	△9
定期預金の純増減額(△は増加)	148	721
その他	3	△16
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,006	145
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	2,050	4,049
長期借入れによる収入	—	5,000
長期借入金の返済による支出	△948	△347
自己株式の取得による支出	△313	—
配当金の支払額	△1,121	△998
非支配株主への配当金の支払額	△8	△4
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△178	—
その他	△24	△26
財務活動によるキャッシュ・フロー	△545	7,672
現金及び現金同等物に係る換算差額	108	△970
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,798	8,750
現金及び現金同等物の期首残高	12,187	16,747
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	136	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,122	25,497

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(連結損益計算書関係)

※ 操業休止関連費用は、コロナウィルスの感染拡大の影響により国内外の一部の工場が操業休止した期間の固定費相当額（人件費や減価償却費等）であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント(注)1						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	車両資材	ハイファ ッション	エレクト ロニクス	環境・ 生活資材	メディカル	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	17,285	6,021	2,853	2,128	1,422	29,711	236	29,947	—	29,947
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	2	50	44	1	99	271	371	△371	—
計	17,285	6,023	2,903	2,173	1,424	29,810	508	30,319	△371	29,947
セグメント利益	1,451	185	566	249	383	2,836	127	2,964	△421	2,543

II 当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント(注)1						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	車両資材	ハイファ ッション	エレクト ロニクス	環境・ 生活資材	メディカル	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	11,095	4,135	2,477	1,734	1,483	20,927	215	21,143	—	21,143
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	0	7	23	7	1	40	150	191	△191	—
計	11,096	4,143	2,500	1,742	1,484	20,967	366	21,334	△191	21,143
セグメント利益	652	6	355	207	407	1,630	129	1,759	△303	1,455

(注) 1. 各報告セグメント区分の主な製品等は下記のとおりであります。

(1) 車両資材……………自動車・鉄道車両等内装材(シート材、エアバッグ、加飾部品)

(2) ハイファッション……………各種衣料製品、衣料用繊維加工

(3) エレクトロニクス……………導電性素材、工業用ワイピングクロス、ビスコテックス・システムおよびサブライ、電子機器、シリコンウエーハの成膜加工等

(4) 環境・生活資材……………建築用資材、インテリア用資材、健康・介護商品、環境・土木資材

(5) メディカル……………医療用資材、化粧品、水処理用資材

なお、「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソフトウェアの開発及び販売、保険代理業、人材派遣事業、不動産賃貸管理事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用(前第1四半期連結累計期間440百万円、当第1四半期連結累計期間322百万円)が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務部門などの管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。